

コロナとインフル 接種を

他の感染症流入も懸念

新型コロナウイルスの水際対策が11日から大幅に緩和され、今後は季節性インフルエンザなどの感染症が海外から入り、流行することが懸念される。関西空港の近くにある「りんくう総合医療センター」（大阪府泉佐野市）の倭正也・感染症センター長が読売新聞の取材に応じ、「新型コロナウイルスと、インフルのワクチンをぜひ受けてほしい」と語った。

（東礼奈）

水際対策緩和 専門家に聞く

同医療センターは、西日本唯一の特定感染症指定医療機関。重症化しにくいとされるオミクロン株でもワクチン未接種の人ではコロナ肺炎を起こす人がみられたという。

倭医師は「今までと違うタイプの変異株が日本に入ってくれば、過去に感染した人でも再感染しやすくなる。重症化を防ぐには4回目のワクチンが必須だ」と指摘する。

国内では新型コロナウイルスの新規感染者は減少が続いており、大阪府でも感染状況を

示す府独自の基準「大阪モデル」が11日に警戒解除の「緑信号」に切り替わった。

一方、ドイツやフランスなどの欧州では新規感染者が1か月で約3倍に増加している。米国では減少傾向にあるが、日本でも主流となっているオミクロン株「BA・5」とは異なる「BA・4・6」がじわじわ広がっている。

特に懸念されるのは、インフルなど他の感染症の流入だ。インフルについては

水際対策の緩和で流入が懸念される感染症

- 季節性インフルエンザ
 - 新型コロナウイルス感染症
 - 麻疹（はしか）
 - 風疹
 - デング熱
 - サル痘
- （倭医師への取材による）



▲ 水際対策が大幅に緩和され、入国者にぎわう国際線の到着ロビー（11日午後、関西空港で）＝三浦邦彦撮影

国内ではこの2年間流行せず、十分な免疫を持たない人が多い。倭医師は「今年流行しそうなA香港型（H3N2）は高齢者が重症化しやすい。A香港型に対するワクチン接種は、発症予防効果は高くないが、重症化を防ぐ目的で受けるべきだ。コロナとの同時接種も検討してほしい」と話す。

ほかにも、感染力が極めて強い麻疹（はしか）や、蚊が媒介するデング熱などが入ってくる可能性がある。今年5月以降、世界的な規模で感染が広がる「サル痘」もこれまで国内で7人の感染者が確認されており、警戒が必要だという。

倭医師は「コロナ禍前と同様に、様々な感染症が流入

すると考えられる。基本的な感染予防対策を日頃から取ってほしい」と強調する。